

令和4年度（第5回）社会教育委員会会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年12月14日（水） 14時00分～16時00分
 - 2 開催場所 日岡山学校給食センター 2階研修・会議室
 - 3 出席委員 後藤昌委員、坂田委員、高瀬委員、後藤強委員、川上委員、菅原委員、徳田委員、山尾委員（8名）
 - 4 欠席委員 長谷中委員、田上委員、田中委員、和田委員、善積委員
 - 5 出席職員 小南教育長、桐山教育指導部長、杉本教育指導部次長、福島教育指導部参事、松尾教育指導部参事、梅野社会教育課長、河村文化財調査研究センター所長、宮本文化財調査研究センター副所長、社会教育課（畑副課長、川向地域家庭教育係長、今井主事）
 - 6 傍聴者 1名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

- 1 文化財の保存と活用及び今後の方策について
（文化財調査研究センターより説明及び現地確認）

委員

平成31年度に歴史文化基本構想を策定されているが、この度の法律の改正に伴って、どういった風が変わっていくのかという構想はあるのか。

文化財調査研究センター

歴史文化基本構想と資料1ページの今後の取組みについての関わりについて、登録文化財制度や補助制度の整備については、文化財保護法改正に伴い、対応を検討していくこととしている。文化財保存活用地域計画の策定については、歴史文化基本構想の関連群をもとに、構想を実現するための地域計画を策定できればと考えている。まだ構想段階ではあるが、それを進めるアクションプランを具体的に検討していきたいと考えている。

委員

町内会の財産区で北大塚古墳を所有しているが、管理に困っている。補助金はいただいているが、古墳の活用方法がなく、年2回の草刈りで精一杯である。維持管理していこうとすればお金がかかる。国が補助金を出してくれるのかということに関心をもっている。

文化財調査研究センター

基本構想は方向性を示すもの、計画は具体的なスケジュールを描いたものという考え方であるが、計画はボトムアップで作成しているものであり、予算要求も含めてひとつひとつ進めているところである。古墳の管理については、ご相談させていただきながら対応していきたい。

委員

このように進めていくという方向が定まれば、みんなで努力すれば、今までよりはできることが増えるのではないかと思う。またご相談させていただきたい。

委員

以前から武道館に来る機会がよくあり、日岡山公園は子どもと遊ぶのにいい場所であるという認識を持っていた。先日、試掘調査の見学をさせていただき、お話をきいて初めて、古墳があるということが分かった。昔のことを正確に調べ、それをもとに地域おこしがで

きる方向に繋げたら、みんなが賛成する方向に行くと思う。しかし現在は、地域の人が気が付かない段階となっているため応援も少ないのではないかと思う。例えば、当時の様子が思い浮かぶような物語や漫画などを作成し、市民に興味を持ってもらえる取り組みが必要だと思う。そうすれば、応援する機運が広がってくると思う。いろいろ制約もあると思うが、調査した成果が報われる形になればと思う。

委員

2年前に、中学生の課題を手伝っていた際に、日岡山古墳群や西条廃寺などがあることを知った。学校で課題を出すときに、日岡山に古墳があるので調べてみてはどうかというヒントを出し、小学生や中学生に調べる機会を与えることは、とても大切だと思う。いい歴史が加古川に埋まっているので、若い頃から勉強できる風土をつくるのが大事であり、その機会が夏休みの課題であると思う。学校教育と社会教育をいかに位置づけ、結び付けていくかが課題だと思う。学校教育だけではなく社会教育と併せて関わっていく必要があると思う。

委員

日岡山公園にくることはあっても古墳を目指してくることはないため、今日の見学は良い機会となった。氷丘地域においても、美乃利の有志の方が作成された「みのりの本」や大野の有志の方が作成された本も刊行されている。地域の中からも情報発信されており、こういったことをもっと広められたらと思う。また、最近、花火大会やイベントが日岡山公園で開催されており、日岡山に多くの方に来ていただき、なじんでいただく、良い機会である。イベントの際には飲食だけでなく、地域のことを学ぶ機会も作ることであれば良いと考える。この度、まちこん氷丘では日岡山をテーマに調べる予定としており、花と緑や様々な情報を掘り起こして作っていきたいと思う。

委員

日岡山公園は駐車場もきれいになっており、ますます足を運んでもらえる機会になると思う。説明をしていただいて初めて、理解することができるので、神聖な場所であると知っていただける標識を設置したり、説明いただけるガイドが定期的であれば、家族一緒に勉強でき、日岡山公園への想いも深くなると思う。

委員

小学3・4年生で「わたしたちの加古川市」という地図や副読本を作っているが、古墳群を明記して、子どもの目に触れる機会を作ることが大切だと思う。そうすれば中学生になったときにも興味がわくのではないかと思う。歴史の学習となると6年生で歴史の学習を行うが、これまでは、考古博物館に行く校外学習がスタンダードであったが、総合文化センターの博物館を見てから、日岡山古墳群を見学するというコースであれば、古代のことをそのまま感じることができ、ふるさと意識の醸成とともに、濃い勉強ができると思う。

委員

地図を見て、古墳が同じ方角を向いていたり、ひれ墓を起点にたくさんの古墳が作られており、作るのにどのくらいの期間や費用、人員がかかったのか、どれだけの権力を持っていた人のものなのか、想いを馳せるとロマンを感じる。そういったことをみんなで考えたりすることが、身近に感じるために大切だと思う。また、子どもから質問を受けたときにある程度答えることができるように親が学習していくのも社会教育の役割だと思う。深い学習までつなげられるようなストーリーがあればいいと思う。

委員

日岡山公園は、車もたくさん止められるので、道を通ったらわかるくらいの大きな看板

を作って、いろんな古墳が並んでいることが分かるようにしたり、その看板の下に、人形を配置して昔の風景を作るなど、加古川っておもしろいなと感じてもらえるものを考える必要があると思う。加古川市にある文化財はすばらしいものがたくさんあるので、人の目につく工夫をしていただきたい。また、古墳もたくさんの方が立ち入ったら土も崩れてしまうので、管理をしていくことも必要ではないかと思う。また、SNSでの情報発信、タブレットを活用した学習も有効であると思う。

(報告事項)

- (1) 東播磨・北播磨地区社会教育・公民館合同研究大会 (10/20) の参加報告について
(委員より報告)
- (2) 兵庫県社会教育研究大会 (11/30) の参加報告について (委員より報告)

- 閉会 16時00分
副委員長あいさつ

以上